

24年度 パドラーズトピックスー4

5月13日・親子カヌーとクリーンアップ

今年はスギッチファンド震災避難者支援応援ファンドの助成事業を受けて、震災で秋田に避難してきている方々や、被災地の方を招待しカヌーによる自然観察会やクリーンアップに農業体験などの田植えや稲刈り、大曲の花火を見ながら秋田の自然を満喫してもらい、パドラーズ会員との交流を通じて、早く秋田の生活に慣れていただく機会にしようとして、4回の欲張りなイベントを行なうことになりました。その一回目として、毎年恒例の「親子カヌーとクリーンアップ」として、13日にりんご園からダリア園のコースで行なわれました。



いつもクリーンアップや昼食を食べる中州は先週の増水で、ドロに埋まっていたためりんご園近くの川岸でクリーンアップを行いました。それでも20袋のゴミがありました。その後ゴールのダリア園までノンストップで「鯨肉鍋が待ってるよ」と声をかけながら、カヌーを漕いでいきました。



ゴールのりダリア園でパドラーズ鍋（鯨肉鍋とミズの味噌たたきと豚汁）をいただきながら交流を深めました。カヌーによる自然観察会で雄物川の雄大さを満喫しましたが、ゴミの多さにもびっくりしていました。こんな遊びがある秋田の方々はうらやましいと話していたことが印象的でした。早く秋田になじんで欲しいと思いました。



昨日のクリーンアップのミズの収穫を美味しく作ってくれた石田、深浦会員です。前の日から準備と仕込みご苦労様でした。

5月19日、20日・農業体験(田植え)



5月19日は気仙沼南郷地区、駒場公園仮設住宅、陸前高田第一中学校仮設住宅の方と福島県浪江町からの方々合わせて16名の方とパドラーズ会員8名、一般の方12名で合わせて36名で「田舎の大将」こと、伊藤会員の指導の下、慣れない田植えを行いました。貴重な体験で、田んぼのぬかるみに足を取られ動けなくなり、それも楽しい経験と喜んでいました。



夕食前に、伊藤巧一会員から今の農業のあり方や問題点など話してもらい、また新しいお米「フルーティ米」や乳酸菌を使ったお米の生産にも力を入れていることなどの説明があり、参加者も大いに秋の収穫が楽しみになったようです。



夕食後は伊藤巧一さんの司会で懇親会に入りました。歌や手踊りで各地域の対抗戦の形で、宴も盛り上がり、久々に大いに心から笑うことが出来たと喜んでいました。カラオケは震災後初めて歌うことになったと陸前高田から参加した大内ご夫妻もデュエットで、皆さんから冷やかされながらもうれしそうで、本当に楽しそうでした。



驚いたのは、皆さん芸達者であるということでした。震災前はこのような当たり前に楽しんでいただいていたことだと思います。このイベントに参加し、秋田の自然や、パドラーズの会員と打ち解けあって、心から今までの心にしまっていたものが一気に吹き出たようでした。盛り上げ隊の伊藤会員にお礼をいいたいと思います。



20日は秋田市民市場さんの協力で、プランターにミニトマトやキュウリなどの野菜を植えました。仮設の方は場所が狭いので、このようにプランターであれば場所も取らないし、育てる楽しみがあるということで大変喜ばれました。野菜などの安全性が今被災地では問題になっているようで、海の魚や、お米、

川魚、野菜などの汚染が徐々に発表になってきているそうです。



ちょうど日曜日で大町のねぶり流し館で竿燈の実演を見せているそうなので、帰り際によって見てもらいました。気仙沼南郷の伊東自治会長さんも小若の竿燈に挑戦しうまく上げていい思い出になったようです。



宿泊は雄和ふるさと温泉ユアシスに泊まりましたが、地元のおばさんがこれまた芸達者な方で、歌って踊って座布団の端を結わえて亀にし、「もしもしかめさん」を

披露してくれました。これで一つ芸を覚えたでしょうと、皆さんを大いに笑わしてくれました。被災地から来たことを知り、ジュースの差し入れと最後は見送りまでしてくださいました。

心温まる地元の人との触れ合いもあり、私たちも「ぐっと」来る場面が何度もあった2日間でした。

このおばあさんのチョッキもネクタイをほどいてつなぎ合わせたもので、ただ者でない感じがしました。



昨日、雄和のりんご園に寄って、秋に収穫しに来た際にりんご狩りをする観光農園を視察に行きました。

りんごの花はとても白くて綺麗なのでは是非見て欲しいと寄ってもらいました。参加者の中には大きな果樹園を営んでいましたが、被災し、農業がしたくても出来ない方などいて、心は故郷に思いを馳せていました。早く復興と願わずにはられませんでした。

秋の収穫には必ず又来ますと、約束をして帰られました。